

森を守り水を育む

きれいな水は森が育んでくれます。豊かな森を守ることが水を守ることにつながり、その水で育まれる川や海の生き物を守るにつながります。

水でつながる森と海

川をさかのぼっていくと、やがて森の地中からわいてくるわき水に行きつきます。

森に降った雨は、落ち葉が積み重なってできた栄養分が豊富な腐葉土を通り、地中にしみこんでいきます。ふかふかとしたすき間の多い森の土を通るうちによごれがとりのぞかれます。さらに、岩石の間を通ることでミネラル分をふくむ「おいしい水」となります。

この水は、川を通じて海に流れこみます。つまり川を通して森と海はつながっているのです。川の上流に豊かな森があれば、その川が流れこむ海の水も栄養分が豊富になり、プランクトンが繁殖します。するとプランクトンをえさとする魚や貝が集まり豊かな漁場となるのです。

水を生み出すもとなる森は水源林などと呼ばれ、水道水を管理する水道局など、水をあつかう人たちが中心となって守っています。また、豊かな漁場をつくるため、漁師たちが川の上流域に森を育て守ることもおこなわれています。

森と海のつながりを守る



山はだからわき出る水が集まり、小さな流れとなる。

雨は土の中をしみこみ間によごれがとりのぞかれる。

チッソやリンなどの栄養素や、腐葉土にふくまれる鉄分をふくんだ水が下流に運ばれる。

鉄分は植物プランクトンや海そうが栄養素を吸収するのを助ける。

植物プランクトンが増える。

動物プランクトン

海そうがたくさん育つ。

多摩川上流の森林は、東京都の「水道水源林」として管理されている。多摩川をせき止めてつくられた小内貯水池（奥多摩湖）は、水道専用貯水池としては日本最大級。



水源の周辺の森の手入れをおこなう。

水を育む水源林

栄養分を豊富にふくむ地下水が川や湖、ダムに流れこむ。

生活用水や発電のため水をためるダム。



川の流域の森を守る。

ブナ林が広がる「天然水の森 奥大山（鳥取県）」では、豊かな天然水が育まれる。近くには、サントリー天然水奥大山ブナの森工場もある。

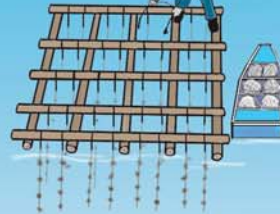
森に木を植え貝や魚を育てる

カキの養殖がざかんだ宮城県の気仙沼湾では、1970年代から海環境が悪化し、カキの収穫量が激減しました。そこで漁師たちは1989年から気仙沼湾に流れこむ大川の流域の山に木を植える活動に取り組みました。その結果、再びカキが育ち、漁たちも集まっていく漁場が復活しました。

大川流域の植林活動の様子。年々参加する人が増え、これまでに植えた木は3万本以上にのぼる。



カキは植物プランクトンを食べて育つ。



プランクトンを食べる魚が集まる。

いかだからつり下げられ育てられる海中のカキ。水と一緒によい匂い植物プランクトンがカキのえさになる。

